

2022年度第2回ふれあい館あり方検討会 議事録

〔日時〕 2022年12月15日 15:00～16:20

〔場所〕 ふれあいまっこく館

〔出席委員〕 ※敬称略

北澤、小澤、天野、浅沼、細野、萩原、江成

〔事務局〕

渡邊係長、西山係長、溝口主任、吉川もみじ館長、古屋けやき館長

河井いちょう館長

〔次第〕

1 開会

2 報告事項

(1) 第1回検討会議事録の確定について

3 検討事項

(1) ふれあい館に求められる役割

【資料1】 ふれあい館に関するアンケート集計結果について

【資料2】 あり方検討にあたっての視点

4 事務連絡

5 閉会

〔内容〕

1 開会

事務局

定刻になりましたので、ただいまから2022年度第2回ふれあい館あり方検討会を開催いたします。本日は寒い中お集まりいただきありがとうございます。

私は事務局担当の高齢者福祉課高齢者サービス係の溝口と申します。本日の進行を務めさせていただきますのでよろしくお願い申し上げます。

最初に資料の確認をお願いします。机の上に配布したクリップ止めした資料です。上から順にタイトルを読み上げますのでよろしくお願いします。

最初に、本日の会議の次第です。次に、第1回目検討会の議事録です。こちらは以前送付したものを印刷したものです。次に、資料1「ふれあい館に関するアンケート集計結果」資料2「あり方検討にあたっての視点」の4点でございます。不足はございませんでしょうか。

それでは、次第に従って進めさせていただきます。

まず最初に本日の流れですが、報告事項が1件ございます。次に検討事項が1件ございます。資料1・2に沿って進めさせていただきます。事前に送付した議題から変更になっていきますのでご承知ください。また、資料が当日配布になりまして申し訳ありません。

本日は16時10分頃の終了を予定しております。円滑な進行にご協力をお願いします。

何点か確認事項がございます。

第1回目と同様、議事録作成用にレコーダーを置かせていただいています。議事録は前回と同様事務局にて作成後、委員の皆様にご確認いただきます。

発言の際は挙手をいただき、会長からの指名の後ご発言ください。マスクの着用をお願いします。また、水分補給は適宜お願いします。

それでは、委員長に進行をお願いします。

2 報告事項

(1) 第1回検討会議事録の確定について

江成委員長 皆様お忙しいところお越しいただきましてありがとうございます。事務局からお話があったように、本日第2回のふれあい館あり方検討会ということで忌憚のない意見をいただきたいと思っております。よろしくをお願いします。

報告事項1件と検討事項1件の合計2件となります。それでは、お手元の次第に沿って進めて参ります。まず、報告事項について、「(1) 第1回検討会議事録の確定について」事務局から説明をお願いします。

事務局 それでは、第1回検討会議事録の確定ということで報告させていただきます。

前回委員の皆様へ送付した議事録から訂正等のお話しがございませんでしたので、送付した内容で確定版とさせていただきます。後日ホームページに公開する予定です。よろしくをお願いします。以上でございます。

江成委員長 事務局から報告がありましたが、今お手元に配布してあるものが確定版となっております。改めてご意見等ありますでしょうか。なければ報告事項は終了とさせていただきます。

3 検討事項

(1) ふれあい館に求められる役割

【資料1】ふれあい館に関するアンケート集計結果について

江成委員長 検討事項にうつります。(1)「ふれあい館に求められる役割」について、資料が2つございますので、それぞれ事務局から説明いただき、ご意見をいただきたいと思います。

まず資料1「ふれあい館に関するアンケート集計結果について」事務局から説明をお願いします。

事務局 ふれあいけやき館館長の古屋です。私から資料1「ふれあい館に関するアンケート集計結果」についてご説明します。

まず、集計結果のところで、回答の合計は654ございまして、回答者として、高齢者団体3団体をお願いさせていただきました。シルバー人材センター、老人クラブ連合会は委員の方にもご協力いただきました。ありがとうございます。回答は高齢者団体は350と、ふれあい館の利用者にも同じ内容でアンケートしまして304の回答をいただきました。合わせて654の回答がございました。高齢者団体3団体の内訳は、シルバー人材センターが101、老人クラブ連合会が183、介護予防サポーターが66となっています。②の回答者年齢をご覧いただきたいと思います。年齢構成が80歳を中心に前後5歳ずつの範囲に高齢者団体・ふれあい館共に約6割集中しています。高齢者団体については、もう少し若いかと想定していましたが、高齢者団体、ふれあい館共にほとんど差が無い結果になりました。

それから、③回答者の性別ですが、高齢者団体、ふれあい館ともに女性の割合が高く、ふれあい館の方がやや女性の割合が高くなりました。④回答者居住地域ですが、こちらも高齢者団体とふれあい館を比べて大きな差はありませんでした。

今回のアンケート集計にあたっては、高齢者団体の中で「ふれあい館を使用したことがある」旨回答した方を、ふれあい館でアンケートに回答した方と合わせて集計しております。その理由は、高齢者団体の回答の3割がふれあい館を利用した経験があるという、当初の予想を大きく上回る結果となったため、ふれあい館未利用者と利用経験者との対比をわかりやすく示す必要があると考えたからです。

3ページをご覧ください。問1では、あなたが定期的または日常的に行っていることについて聞いております。グラフの文字が

小さくて申し訳ありません。コメントと合わせてご覧ください。
「ふれあい館利用なし」では、「地域貢献」と「体力づくり」が多く、「ふれあい館利用あり」では「体力づくり」が最も多く、「娯楽・遊技」が次いで多くなりました。この「地域貢献」が多いのは、協力いただいた3団体が、そもそも地域貢献を行っている団体なので、それが反映されていると推察します。それを除くとやはり「体力づくり」の取組が多いということが見て取れます。

次に問2「問1で回答したことを行うため、利用しているものはどれですか」でございますが、「ふれあい館利用なし」では「グループ・サークル活動」が最も多く、次いで「公共施設」となりました。「ふれあい館利用あり」では、当然「ふれあい館」が一番多かったのですが、次に「グループ・サークル活動」「公共施設」が多く、利用あり、なしともにその二つが多くなりました。

4ページをご覧ください。問3「あなたはふれあい館についての程度ご存じでしたか。」という質問です。ふれあい館利用ありの方は当然「利用している」等がほとんどとなっておりますが、「ふれあい館利用なし」のグループでも70%程度がふれあい館のことを聞いたことがあるという結果になりました。

問4「今後ふれあい館を利用したいと思いませんか」ですが、ふれあい館を使ったことが無い方でも、「ぜひ利用したい」「利用してもよい」を合わせると過半数となりました。逆に、ふれあい館を利用したことある人でも「あまり利用したいと思わない」という回答もありました。これは実際利用した結果、あまり良くなかったということが含まれていると思います。

問5は問4で「ぜひ利用したい」「利用してもよい」と答えた方に利用したいと思う理由を聞いたものです。「ふれあい館利用なし」のグループでは「無料で使える」という理由が多く、近隣にあることが次に多かったです。サービスの内容について触れたものはあまり多くありませんでした。「ふれあい館利用あり」のグループでも無料や近隣にあることが多いですが、サービスの内容や雰囲気など、実際に利用してみても意見も見られました。

問6は逆に問4で「あまり利用したいと思わない」「利用したくない」と答えた方にその理由を聞いたものになります。「ふれあい館利用なし」の方は圧倒的に遠いや不便が多い結果になりました。「ふれあい館利用あり」の方の利用したくない理由ですが、かつて利用していた方の意見が多いと思われませんが、「遠い、不

便」や「サービスに魅力がない」が比較的多くなりました。

問 7 はふれあい館で利用したいと思うサービスについて聞いたものです。ふれあい館の利用あるなしに関わらず、「体操・ストレッチ」が多くありました。「ふれあい館利用なし」では比較的「教養講座・同好会」が多く、「ふれあい館利用あり」では「健康機器」が比較的多くなりました。

問 8 はふれあい館で提供してほしいサービスについてですが、様々な意見がありました。複数意見があったものを記載しています。「ふれあい館利用なし」ではボッチャ、「ふれあい館利用あり」では卓球等の意見がありました。

続いて問 9 「ふれあい館の事業内容について、今後、どのような方向に力を入れていくのがよいと思いますか」ですが、「ふれあい館利用あり」の方では「現状維持」が多かったですが、それを除くと、ふれあい館の利用あるなし共に「健康な体づくりを応援するサービスの充実」が多くありました。

問 10 「ふれあい館の運営方法についてどんな工夫が必要ですか」ですが、これはふれあい館の利用あるなしに関わらず「身近な場所でサービスを利用できるようにする」が圧倒的に多くありました。そういったことが求められていると思われ。身近な場所ということに関連して問 11 ですが、ふれあい館に限らず「健康づくりや教養・レクリエーションのために無理なく通える範囲はどれですか」という質問です。「徒歩で行ける範囲」がふれあい館の利用あるなしに関わらず過半数となりました。「徒歩、自転車で通える範囲」を加えると、両方とも 8 割となっていて、近距離で通える場所が皆さんから求められていることが分かります。

9 ページをご覧ください。問 12 「高齢者がいきいきと暮らしていくために、あなたがとくに重要と考えるものはどれですか。」ということを行いました。「ふれあい館利用なし」のグループでは「仲間たちとのコミュニケーション」「体力の維持向上、健康保持」が上位二つとなりました。「ふれあい館利用あり」のグループでは上位二つが逆転していますけども「体力の維持向上、健康保持」「仲間たちとのコミュニケーション」が多くなりました。若干価値観が異なるところはありますが、似ている結果になりました。問 13 は問 12 で回答したことがらについてどの程度出来ているか聞いたものになります。ここでは上位二つの「仲間たちと

のコミュニケーション」「体力の維持向上、健康保持」について載せています。上が「ふれあい館利用なし」下が「ふれあい館利用あり」のグループです。「ふれあい館利用あり」のグループのほうがよくできている、ある程度出来ている、の割合が若干高くなりました。

以上が各問についての説明ですが、まとめて言えることを最後に記載しています。まず回答元の団体の年齢構成が類似しているということで、潜在的な利用者と言えるのではないかと思います。

ふれあい館の利用の有無を問わず「公共施設」や「グループ・サークル」を活動場所としている方が多い。また、無理なく通える範囲を「徒歩」や「自転車」の範囲と考えている方が多い。

ふれあい館の利用する理由として「近隣」が多いことからサービスの内容以外にも地理的要因が施設利用に影響を与えている。また、無料で利用できることが大きい。また、アンケートの回答者の多くの方が「体力を維持・向上させ、健康な体をつくり保つこと」をいきいきと暮らしていくための重要なことと考えている。以上のことがアンケート結果から読み取れることとまとめました。説明は以上です。

江成委員長

ありがとうございました。ただいま事務局からの説明につきまして、委員の皆様からご意見、ご感想、質問等ありますでしょうか。

委員

金森のもみじ館を主に利用しています。萩原と申します。毎日のようにふれあい館を利用しています。ふれあい館を利用している人の中でも、デイサービスに週に1回2回行く人が何人かいます。ふれあい館を利用して年齢が高くなって来なくなったと思うとデイサービスの方に行っている方も多い。ふれあい館は自分の脚でこられる人は利用が出来る。ふれあい館はいろんな人が利用しますので、みんな仲良く楽しくばっかりにはなかなか行かない。毎日来るようになると、自分のふれあい館だなんて感じになるような人も出てきて、新しく来る人がどこに座ろうかと思っていると「あなたここに座りなさい」と言って、強制されるのが嫌な人が来なくなってしまうこともある。なかなか70過ぎると個性が出ておせっかいな人も出てきて、みんなが仲良く楽しくと行かないけど、それでも良かったら健康器具を利用したり、体操したり、同好会・教室、フラダンスとかをやっています。

私を感じているのは、一番トラブルが起きるのはカラオケ。今、カラオケは入力するのも自分でやる。順番が来たら自分で番号を入れて登録する。最初は不慣れな人も慣れてきて自分でやるようになってトラブルが少なくなる。他にも、飲酒した状態で来たり、態度が悪かったり、周りの利用者や職員に迷惑をかけるような人が若干いる。人間の集まりだからふれあい館の中でも色々あります。でも、私はふれあい館があることにいつも感謝しています。

江成委員長

ありがとうございます。アンケート結果について利用者から見ると傾向など実態に沿っていますか。例えば体力づくりの向上を目指している方が多いなどありましたか。

委員

アンケートはよく出来ていると思います。利用者の意見として、健康増進とかコミュニケーションが書いてありました。女性の高齢者になると、ご主人が亡くなって一人暮らしになって家にも話し相手がないという話を聞きます。ふれあい館をきっかけにそういった方とコミュニケーションを取ったりしました。他にもふれあい館が取り持ってくれたコミュニケーションもあり、感謝しています。

江成委員長

ありがとうございます。他にありますか。

委員

アンケートの概要について、回収率は分かりますか。

事務局

老人クラブの場合は全クラブに 5 枚送付しました。回収率だと 7 割くらいかと思います。

江成委員長

老人クラブの視点から見ると、高齢者団体として回答いただいてますが、アンケートの結果はどうか。

委員

3 ページの中で、地域貢献が上位で、私たちの老人クラブでいうと、地域貢献を一定の施設というよりもそれぞれの自分の住んでいるところで行っていることが出ていると思う。問 5 で無料ならば使ってみたいというところに老人クラブの考えが出ている。地域で老人クラブの活動をしていると、自治会や町内会館でも有料の場所が多くて苦慮している。特にコロナで貸し出すところが減った。そうすると有料の場所を探してクラブ活動をしているところもある。ふれあい館が身近にあれば使ってみたいという人もいるのではないか。桜館にお風呂が昔あった。桜館の近くに最近温浴施設ができて、私も一度使ってみたが高額だった。シニア割引とかあればいいと思って相談してみたりもしたが、他の温浴施設との兼ね合いがあるため難しいと言っている。

た。この調査の結果、色々なことがわかったが、地域貢献を重視しているところなど、老人クラブとしても参考になったと思う。ありがとうございます。他にありますか。

江成委員長
委員

ふれあい館指定管理者の浅沼です。今回のアンケートの間 5, 6, 9, 10 の結果にある「その他」について、自由記述があったと思う。例えば利用したくない理由の自由記述など、非常に参考になると思うので、自由意見がなかったのか、もしあればどんな内容だったか教えてほしい。

事務局

手元に詳細資料がないので、覚えている範囲での回答になるが、例えば問 6 のふれあい館をあまり利用したくない理由の設問で「ふれあい館利用なし」で「その他」が 32 票ある。その他にあった自由記述としては、すでに別のところに居場所があるという記述が多かったように記憶しています。通いの場が固定されると新しい所に通い始めることをあまり考えないのではないかと想像しています。後は問 9 の今後の事業展開の部分では問 10 と重複する部分もありましたが、パソコン等の記載が目立ったように思います。自由記述で書いている部分については、特定の意見が多かったというよりも回答者が様々な考えを持っているという印象でした。詳細なデータもあるので、共有も出来ればと考えています。

委員
江成委員長

参考になると思うのでお願いしたい。

アンケートの回答傾向を見た時に桜館の利用者と似ている等何かご意見ありますか。結果を見ると近隣だから利用しているとか、体力づくりに関心があるということがわかりますが。

委員

桜館で今利用者がやっているのは、健康体操とかの健康づくりが中心。グループ活動も介護予防グループ等全部で 20 位のグループが活動している。その他カラオケも人気。グループで活動が多い印象がある。お風呂は人気であったが、その代わりに介護予防の活動を行っている。

今、利用者がコロナもあって減っている部分もあるが、要因としてはお昼が入れ替え制になったこともある。交通機関で来ても午前中で帰らなければいけないので、わざわざ交通費かけて半日利用しないという声を聞くことがある。後は館内で食事をさせてほしい旨の要望もある。その辺りはコロナが落ち着いて元通りになればご利用が増えるのではと思う。

江成委員長

ありがとうございます。他にありますか。

- 委員 町田市社会福祉協議会の北澤です。質問と感想になります。先ほどの回収率の関係ですが、シルバー人材センターは前回の検討会で450枚配布枚数の想定がありましたが、配布はどのようにされたんですか。
- 事務局 シルバー人材センターの班長が月1回来るときに配布しました。それと、わくわくプラザの会議室を利用する方に配布しました。
- 委員 アンケートをわくわくプラザのカウンターに置いて、書きたい人に書いてもらう形ですか。
- 事務局 直接会議室の利用者にアンケートを手渡して書いてもらいました。後は、天野委員に協力いただき、各地区の会合の時にアンケートを配布して、記載いただきました。
- 委員 アンケートについては色々な高齢者に配って書いてもらった。
- 委員 回収率は、今回のアンケートに関心があれば出してもらったり、なければ出さなかったりと思うので、回収率の情報も判断材料になるのではないかと思う。後、2ページの高齢者団体でふれあい館を使っている方がいる方が分かったが、重複している部分は両方のアンケートに回答した可能性もあるのか。
- 事務局 特定はできないが、高齢者団体とふれあい館利用者両方で回答している可能性はあります。
- 委員 その部分はチェックしていないのか。
- 事務局 チェックしていません。
- 委員 感想だが、4ページの間4「今後ふれあい館を利用したいと思いますか」で、ふれあい館を使ったことが無い人でも「利用したい」と56%回答していることに驚いた。
- 江成委員長 事務局に確認だが、高齢者団体からアンケートの回答を350得ているが、配った数はわかりますか。
- 事務局 老人クラブだと265位、シルバー人材センターだと300位かと思う。
- 委員 前回の資料だとシルバー人材センター450枚となっているが。
- 事務局 前回時点での想定と配布方法が変わったため少なくなりました。
- 江成委員長 渡した分はほぼ回答が返ってきたということでいいですか。
- 事務局 その通り。後、介護予防イベントで66枚配布して、回収しました。
- 江成委員長 介護予防サポーターの66枚は介護予防サポーターのみではな

く、イベント来場者も含むということでもいいですか。

事務局

その通りです。

江成委員長

問4で「ふれあい館利用なし」で利用したい旨回答した人について、この設問はふれあい館の情報を伝えた上で回答してもらっているのですか。

事務局

老人クラブやシルバー人材センターへの説明時にはパンフレットを置いて説明しています。

江成委員長

シルバー人材センターからはアンケート結果について何かありますか。

委員

60歳以上の高齢者が登録して、仕事と社会参加するのがシルバー人材センターですが、町田のシルバーも出来て40年たって各市町村に1つある全国的な組織です。

実はこのアンケートの結果に私も興味がありました。現在、シルバー人材センターの会員が伸びない状況が続いています。元気な高齢者が増えているのに会員が増えないのはなぜだろうと考えた時に、雇用の延長や再雇用もあるし、働き方が多様化していることがあるのかなと思います。後は、価値観の違いもあると思います。NPOで自分たちが起業したり、地域のグループで仕事したりする形も出てきました。これは町田だけじゃなくて全国的なことだと思います。このアンケートの結果はそういう意味で興味深かったです。

シルバーに入っている方たちの一番の望みは健康でありたいということでした。今は就労しているから健康で、就労している仲間たちとの仲間づくりが出来ているが、地域に帰ったときに自分の居場所があるかどうかというと、問4は、自分が働けなくなったときに居場所として将来的にふれあい館を使いたいという意味で回答している人がいるのではないかと思う。

そこの中で何をしたいと言ったら、やはり健康維持や仲間づくりがあると思う。高齢になってからふれあい館にすんなり入れるのかどうか。ふれあい館で行うメニューによっては入りやすい部分もあると思う。

ふれあい館の外では、昔はゲートボールだったが、今はその他にボッチャがあったり、グラウンドゴルフなどもある。今は平日ほとんどの場所で高齢者は外で元気に活動している。

それとシルバー人材センターの高齢者は仕事だけではなく、成瀬の体育館や旭町の体育館の運動器具を朝使ってからシルバ

一に来る人もいる。結構町田の中には高齢者が憩える資源が一杯あると感じている。だから価値観の多様化もあるので、それぞれ活動しているから、なかなかふれあい館だけにとかシルバーだけにとまらないのではないかと思う。なので、もっと健康維持のメニューを考えるなどして、遠くの体育館へは行けないけど近くでそういったことが出来るメニューがあれば通いたいような人にやっていけばいいのではないか。そういう声が今回アンケート回答した人からあった。シルバーの会員は今 3,000 人くらいいるが、ふれあい館にみんな関心を持っている。ただ、どういう風に自分が入っていこうか、突破口は何かというのはあると思います。

江成委員長

ありがとうございます。時間の関係もありますので、資料 2 の「あり方検討にあたっての視点」について、事務局から説明をお願いします。

【資料 2】あり方検討にあたっての視点

事務局

資料 2 として箇条書きで記載した資料ですが、今回のあり方検討にあたっての視点ということでまとめたものになります。大きく 2 つに分けてありまして、今回行ったアンケート結果から読み取れる高齢者のニーズを基に検討していく視点、それから外部的な要因として、社会状況の変化ということで色々な制度が出来たことなどを踏まえ検討していくというものになります。1 のアンケート結果から読み取れる高齢者のニーズであります。先ほどもありましたように、高齢者がどのような活動をしたかということで、①活動内容の視点があります。これについては体力維持・健康な体作りに尽きると思います。

また、②の活動場所として、それらの活動をどこで行うのかという視点です。アンケートの問 10 の中で「身近な場所」さらに問 11 「徒歩及び自転車で通える範囲」という回答が多かったことから、近くの活動場所がほしいということが見て取れました。

それと、③ふれあい館への関心ということで、北澤委員からありましたように問 4 の回答でふれあい館を利用したことなかったが、利用してみたいという回答が一定数あったということで、近くにあれば利用したいと思っている方がいることがわかりました。

今回行ったアンケートの結果からわかる 3 つの点を考慮して

検討の方向性を決めていきたいというのが一つでございます。

それから、2の社会状況の変化ということでまとめてみたいのですが、ふれあい館が出来た当時は、健康増進に関するメニューを総合的に提供するというような目的でレクリエーション施設的な意味合いが強かったのですが、その後、高齢化が進んでおります。ちなみに、2040年には高齢化率が全国だと高齢35.3%で、団塊ジュニア世代が後期高齢者となるということで、世界に類を見ない状況となっております。そのことが前提にありまして、2000年に介護保険制度が出来まして、その後介護予防に関するサービスが厚くなってきました。2006年の頃に総合的な介護予防システムが構築されまして、当時は市内に15、現在は12あるのですが、広域ではなく小さな生活圏域で、そこに地域包括支援センター、今の高齢者支援センターがあります。

その後、2014年に施行された医療介護総合確保推進法によって、地域包括ケアシステムが導入されました。これは、国の方でモデルを示しまして、今町田版の地域包括ケアシステムを展開しているところです。これは色々なサービスを地域で包括的に提供することが趣旨なんですけれども、その提供する範囲が、先ほども言いましたように、中学校の学区の範囲でサービスを総合的に提供する。町内会とか自治会老人クラブなどを単位としてサービスを提供したいというような方向が出されております。

町田でも、色々な高齢者支援センターのご尽力で、介護予防自主グループが2020年度318団体地域で活動しています。それとは別に町トレというトレーニングのメニューが町田独自で作られたんですが、その自主グループも2020年度で164団体と、地域で活動している、自主的な活動を伴うグループが増えているという状況がございます。

そのようなところで、地域の中で地域共生ということで地域で活動しているということが、現在の介護サービスの傾向であります。これらの点からふれあい館の役割を考えていきたいと思っております。以上です。

江成委員長

ありがとうございます。事務局から説明がありました。先ほどの検討事項にもありましたが、アンケート結果から読み取れる事実を整理していただいて、その上で社会状況の変化を踏まえたうえで今後のふれあい館のあり方とか、役割をどのように持たせていくかということになるかと思っております。その点について

て委員の皆さんからご意見、質問等ありましたらお願いします。

委員

アンケート結果から読み取れる高齢者のニーズで、活動場所について、身近な場所は確かにそうなのですが、ニーズとしては無料で使えるというニーズがありましたので、視点としては持つてもらったほうが良いと思います。

江成委員長

ありがとうございます。地域包括ケアシステムの話がでましたが、細野委員から支援センターの立場からご意見いただければと思いますが。

委員

南第2 高齢者支援センターの細野です。今お話があったように、自主的なグループや町トレのグループの地域での立ち上げのお手伝いや声掛けを普段からやらせていただいているのですが、ふれあい館に来る方や、老人会やシルバー人材センター活動に関心を持って関わったりしている方がこれだけ沢山いるのはうれしいことではありますが、私たちが日ごろ業務の中で気になっているのは、そういうところが必要なのに自分から関わろうとしないというか、引きこもり気味な、特に男性の一人暮らしの方が本当に多い。そういう地域に埋もれている方たちを、ちょっと足を運んでみようかなと思えるようなふれあい館になるためにはどうしたらいいのかということ、この検討会に出させていただいてから考えています。

広報の仕方やチラシの作り方も、住民の方の気持ちを捉えるような斬新な変化が必要なのかもしれないし、地域には必要だけれども自分からはなかなか声を上げない、自分からは足を漕ぎ出せない方たちに対して私たちは最前線でどういうことが提案できるのか模索しているところです。

今でた町トレとかはいいきっかけになっていて、そこにはちょっと行ってみようと思ってる方が増えているのは事実なんです。その中で、老人クラブ連合会さんですとかでも取り組みたいという声もいただきますし、そこで私たちも積極的に関わってみたいと思ってまして、やはり場所が無いというというのがネックになっているグループも多くて、町内会館があっても貸し出しが制限されたり、有料だったり、外部の人がいたら利用料が高くなるとか、そういったところが使いやすくなれば良いと思います。ふれあい館もそういった意味で、地域に積極的に門戸を開くようなあり方が必要なのかなと。そうすると私たちや地域の方も積極的になれるのではないかと思います。

1点教えていただきたいんですが、アンケートの問2で「公共施設」とあるのは、体育館くらいしか思い浮かばなかったんですが、そんなにたくさんの方が体育館を利用しているのかなと思ったのですが、この公共施設は何を指しているのか分かれば教えてください。

事務局 自由記述ではないのでアンケートを記入した方が公共施設と判断したものはあるが、図書館・市民センターの貸出施設・わくわくプラザといった公共施設を想定しています。

委員 ふれあい館と同じくらい使っているという結果が出ているので驚きました。

事務局 ふれあい館は市内6カ所しかないが、市民センターだったり図書館は地域にあるので、そういった意味でも公共施設を使っている方が多いのだと思います。

委員 公共施設というのは、例えばグラウンドゴルフだったら私たちは公園でやる。そういうのも入っていると思う。町内会館や自治会館も私たち老人クラブにしてみれば、市が管理していなくても、公共施設と考えている。

江成委員長 老人クラブでは、活動の拠点としている場所は具体的などどのような所が多いですか。

委員 クラブによって違いますが、ふれあい館でクラブ活動しているところは私が聞いた限りは無いと思う。グラウンドゴルフだと大体公園、輪投げは近くの町内会館や自治会館でやる。私のところは外でやっている。役員会だとか色々な班長会だとコミュニティセンター。グラウンドゴルフ・輪投げ・カラオケ・健康講座などの連合会の支部のものは市民センターでやっている。

江成委員長 ありがとうございます。社会状況の変化として高齢化が進んでいるという話がありました。先ほど天野委員から高齢化が進んで高齢者の方が増えている中でも中々シルバー人材センターの会員が増えていかないという話がありました。シルバー人材センターで就労以外の活動、地域活動等をされていると伺っていますか、どのような活動をされていますか。

委員 ボランティア活動は盛んにおこなわれています。シルバー人材センターである程度働いて活動費を得て、地域のボランティア活動に活かしていただいています。

江成委員長 ありがとうございます。具体的な検討の方向性は第3回でまとめたいと思っておりますが、その他、今回のアンケート結

果とか社会情勢の変化の視点からご意見ありますでしょうか。

委員

やはり、ぴんぴんころりと言いますが、高齢者の方に対してこれからの望みの話になると、健康な体作りや体操・ストレッチが話に出る。アンケートでも1位なので、そういったところの関心が高いのが、そうだろうなと思ってましたけれども、きちんと数値にも表れているのを見ると、今後のふれあい館のあり方というの、そういったところを捉えて考えていく必要があるな。と改めて痛感しました。そういったことプラス、出かけていくと、そこでおのずと交流が生まれてくると思いますし、萩原委員がおっしゃったように、ふれあい館を使うことでつながりが生まれて、ふれあい館以外でも交流されているという話がありましたけれども、そういったところに波及していく。今一番関心のある健康づくりとか、ストレッチとかいさういう所が注目していく点だなと思いました。

私たちも地域の講座などで、ちょっと前までは認知症の講座などは広報しなくても人が集まったんですが、最近は認知症ということよりも健康体操だとかの方が問い合わせとか関心が高いなと感じているので、世の中のシニア層の興味がそちらの方にいっているのかと思いました。

江成委員長

きっかけとしてふれあい館にこられて、そこでコミュニケーションや仲間づくりをしてその後の交流に繋がる流れもあるのかと思います。

委員

第3回で大きな意味でふれあい館のあり方を検討していくことになると思いますが、このアンケートなどをこれからのふれあい館のサービスに活かしていきたいなと思います。

江成委員長

デジタル機器の活用など、桜館のほうで取り組んでいきたいと考えていることもあると思いますので、アンケート等も踏まえて取り組んでいただきたいと思います。

今日いただいた意見なども集約しながら、また第3回で今後の方向性について議論いただければと思います。よろしくお願ひします。全体通して、何か意見が無ければ、以上で本日の検討会を終了とします。この後の進行は事務局へお返しします。

4 事務連絡

5 閉会

事務局

ありがとうございました。次回の第3回検討会、最終回は来年の2月上旬を目途に想定しています。また日程が決まりましたら開催通知を送付します。

以上で本日の検討会を終了します。ありがとうございました。